

特定非営利活動法人 まちだ結の里のご紹介

2022年10月

副理事長 鶴岡 秀樹

奈良ばい谷戸

- 町田市北部、多摩市との市境沿いに広がる「北部丘陵」の一角。古くから水田耕作が続けられていた、西側に開けた、奥の深い谷戸。
- 多摩市側（北側）は多摩ニュータウンとして大規模開発され、住宅団地が広がる町。町田市側は里山（雑木林、谷戸田、畑地）が残る環境。その中でも、奈良ばい谷戸とその周りの丘は緑の色濃く残るところ。
- 1990年代、当時の住宅都市整備公団による「小野路西部区画整理事業」予定地の一部となり、多くの土地が、公団に買収され、耕作放棄がすすみました。

活動場所：奈良ばい谷戸



荒れてゆく奈良ばい谷戸

- 1990年代後半頃までは谷戸の中央部では稲作が続けられ、水路も維持され、周辺の小さな畑でも耕作が続けられてきた。
- 耕作放棄され、谷戸のほとんどの部分はアシ、オギの繁茂する湿性の草原となっていた。水路も荒れ、カエルやゲンジボタル出現数も激減していた。
- 谷戸上部やその周辺の畑地はアズマネザサ等が密集してはえ、入り込むことさえ難しい場所になっていた。谷戸奥部ではマタケが急速に入り込み、5年ほどで真っ暗な竹林となってしまった。
- 周辺にはクヌギ、コナラを主体とする雑木林が広がっていたが、手入れがなされず、林床はアズマネザサに覆われ、植物の種類の貧弱な林になってしまっていた。場所によっては、シラカシなどの照葉樹が大きく育ち、一年中暗い陰樹の林になった。
- 家電製品など様々な粗大ゴミの不法投棄が目につくようになった。

大きな状況の変化

- 住宅都市整備公団は大幅に改変、この地域で計画されていた区画整理事業計画は中止され、町田市では、公団が先行取得していた土地を買い取り、05年5月、北部丘陵まちづくり基本構想をまとめた。
- 北部丘陵の将来像として、まちづくりのテーマ：【農とみどりのふるさとづくり】を示し、特に奈良ばい谷戸は「みどりの保全エリア」と設定され、「土地利用の方向・緑の公的保有を推進して将来に引き継ぐ緑の景観や水源の保全を図る。」と定められた。

谷戸の再生の始まり

- 町田市では「農的手法による、環境保全活動のモデル事業」として再生を行うことを決め、2005年10月より近隣の農業者（町田歴環管理組合）の指導のもと、40名の市民による、谷戸の再生活動が始まった。
- 草を刈り、元の畔の位置を押し量り、畔の再生から取り組みました。水路も荒れていて、耕耘機などは使えず、全てが人力による作業でした。
- 2006年度、一年目の稲作が始まりました。その年は田んぼ2枚、約500平方メートルだけの耕作でしたが、歴環から「谷戸手法」を教えていただきました。
- 稲作が一段落した後は、周辺の畑地、樹林地などの整備も徐々に行っていました。田の水管理、稲刈り後の諸作業（もみ干し）、草刈などが行われ、谷戸の様子は一年間でずいぶん変わりました。

里山環境の再生例

2005年



2006 か 2007年



自主的な市民組織の立ち上げ

- 2007年3月、市民団体「奈良ばい谷戸に親しむ会」が発足した。
- 2008年度は、市のモデル事業も新たな参加者を募り、市が、谷戸入り口の貸家を借り上げ、活動に利用できるようになった。トイレ、水道、道具の置き場所も近くに確保でき、毎週水曜・土曜日に活動をない、畑作も行うようになった。

任意団体からNPO法人へ

- 農的手法による環境保全
- 地域の農家、行政、市民の協働による里山再生
- 地域に残る技術・知識の伝承

の三点を趣旨に、2009年「NPO法人まちだ結の里」が発足した。

- 緊急雇用対策事業の委託を受けることができ、散策路の整備、炭焼き窯の築造、炭焼きの実施など、より広く里山環境の復元のための活動をおこなった。

法人化からの10年 ①

- 2010年度には里山再生事業を市から委託を受け、いっそう里山再生への役割が高まった。耕作する田んぼもひろがり、畑地、樹林地などの耕作、管理なども以前にも増して積極的に行い、地域活性化の方策として市民参加の芋掘りなども手がけた。
- 里山再生事業を続け、景観は大きく変わった。田んぼだけでなく、アズマネザサ、マタケなどに覆われていた元畑地も、畑や草地となった。雑木林も下草刈り、落ち葉掃きがなされ、林床がとても明るくなった。ほんの一部ですが、古いクヌギ、コナラが伐採され萌芽更新より若い林が生まれた。

法人化からの10年 ②

- 景観の変化により、植物の種類が変わるだけでなく、種類が大きく増えた。ネザサが取り払われることで、地中に寝ていた種子が発芽し、色々な植物が芽吹いてきた。田んぼなどではミズニラ、イトトリゲモなど絶滅危惧種の水生植物が復活し、笹をきれいに刈った斜面ではアカネスミレ、ジュウニヒトエ、チゴユリなどが群生し、その他多くの植物が見られるようになった。
- ノウサギの糞を見ることができ、一時減っていたカエル類や昆虫類も増え、ゲンジボタルが舞い、小型の野鳥はもちろんノスリやサシバなどの猛禽類も飛来するようになった。タヌキ、アライグマだけでなくアナグマ、キツネ、フクロウ、ムササビなども確認された。

トウキョウダルマガエル



フデリンドウ



イタチ



法人化からの10年 ③

- 事業の目的は「希少種」だから保護し生物多様性を維持するという事ではありません。地域で行われてきた、「伝統的な農業」を習い、実際に行うことによって、環境そのものを人の手の入っていたころの里山に戻すことです。そのことにより見られなくなった動植物も再び姿を現し、多様性に富んだ里山になることを期待する。それが、「農的手法による環境保全」です。
- 里山環境復元・保全だけでなく、地域に残る技術・知識の伝承の一環として、地元の農家の方から「目かい籠」の技術を習い伝承する事業も継続しています。

「目かい籠」講習



法人化からの10年 ④

- 新型コロナ蔓延前までは、近隣の方を招き、餅つき等も行い地域との交流もお行いました。(この二年は中止せざるを得ませんでした)
- 「筍掘り」「田植え」「稲刈り」「サツマイモ掘り」を市民参加の行事として行い、里山環境を保全する意味等を広く市民に知ってもらう努力も続けています。市内の児童養護施設の子供たちが月に一度里山体験に訪れ、農作業体験・里山の生き物探検などを楽しんでもらっています。
- 収穫物は市内の小学校、児童養護施設で給食等に利用していただいています。
- 今の『奈良ばい』だけを見た人には、以前の荒れた状況を想像するのも難しいと思います。この環境が人の手により維持されていることを少しでも思い起こしていただければと思います。

餅つきを通じた地域交流



市民向け稲刈り体験



学校給食に農産物提供



現状と課題 ①

- 入り組んだ土地の所有関係のなか、荒れたままの山林などが多く残され、さらに周辺の田畑でも耕作放棄が広がっています。また市の所有の土地であっても、未整備の田んぼ、畑地、樹林地が多くあります。当会の会員数では、今の面積で手一杯とも言えます。
- 緊急の課題として「ナラ枯れ」があります。2020年から奈良ばいでもカシノナガキクイムシが入ったコナラ・クヌギが増え、今年になって木が倒れたり、大きな枝が落ちたりすることが増えてきました。今ではシラカシなどにもキクイムシが入るようになり、枯れ木の被害は今後とも増えると予想されます。

ナラ枯れによる落枝、倒木



現状と課題 ②

- 散策路や田畑、林などでは、安全上の観点からも放置することはできません。理想的な解決策は、樹齢30年以上のクヌギ・コナラおよびシラカシなどの陰樹を伐採、クヌギ・コナラなどを更新し林の若返りを行う。その後は15年ほどの間隔で伐採・更新を繰り返す伝統的な薪炭林の形に戻す事だと思いますが、・・・。
- 現実的には枯れて倒れる危険のある木から伐採し、その周辺の明るくなった場所に新たなクヌギ・コナラなどを育てて行くのが良いと思います。労力や技術さらに民地に関わる責任のことから考えると、町田市、東京都などの行政が積極的にこの問題の解決に取り組まなければならないと考えます。

現状と課題 ③

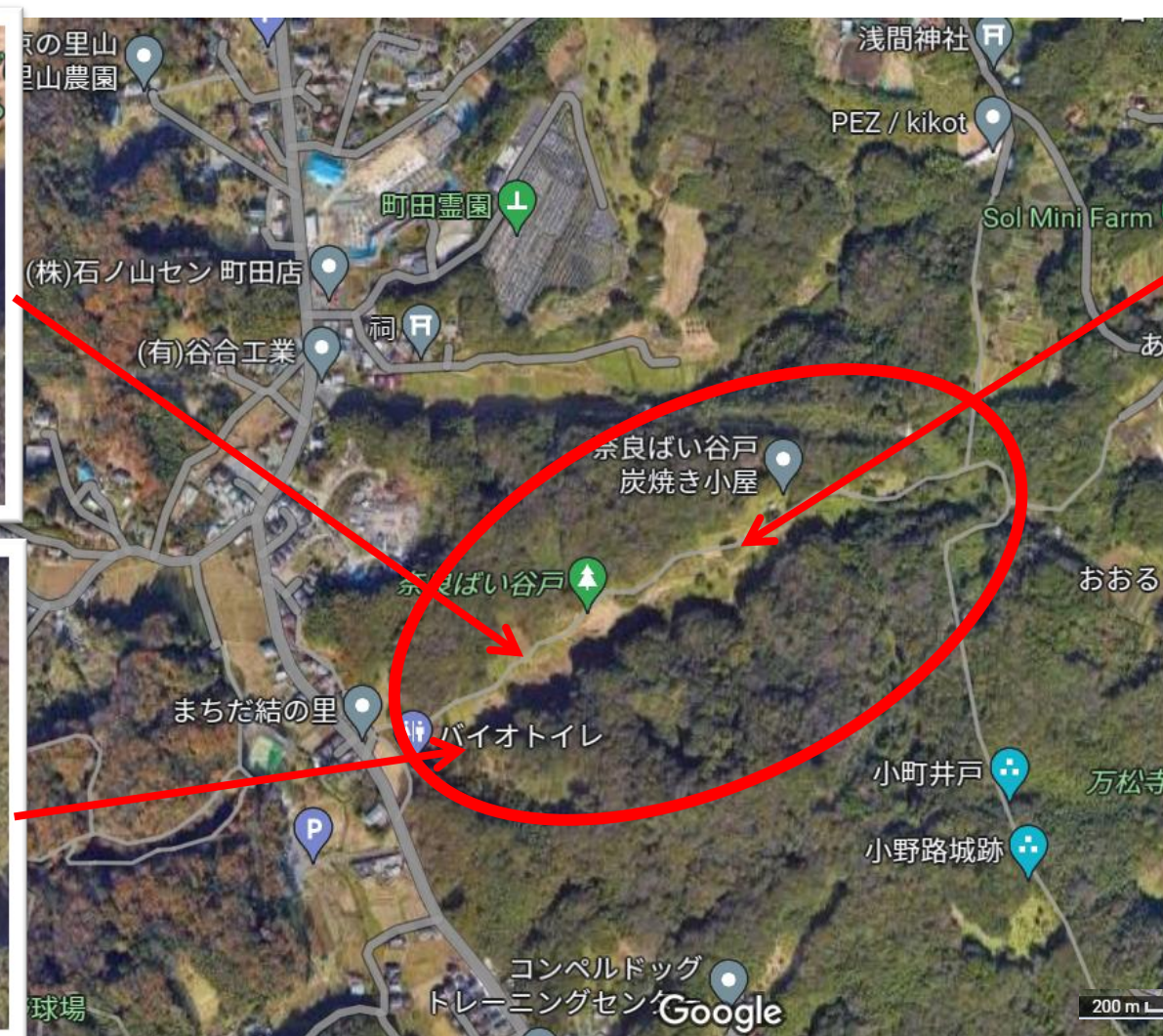
- 単に市民ボランティアによる里山環境の再生ではなく、そのことにより、地域が活性化し地域の農業者・地権者の方にも喜んでもらえるような仕組み作り、そして行政が積極的にかかわり、大きな支援することがより重要になると思っています。そのために多くの方のお知恵をお借りしたいと考えています。
- 最後は、愚痴のようになってしまいましたが、活動そのものはとても楽しめるものだと思っております。もちろん肉体的には厳しいこともありますが、自らの働きかけによって環境が良い方向に向かう経験はとても素晴らしいものです。
- 少しでも多くの方に「農的手法による環境保全」に興味を持っていただき、われわれと一緒に、活動に参加していただければと切に願います。



ご清聴ありがとうございました。

參考資料

おもな活動場所：東京ドーム 1.7個分 耕作地 10千m²、休耕地 15千m²、樹林地 57千m²



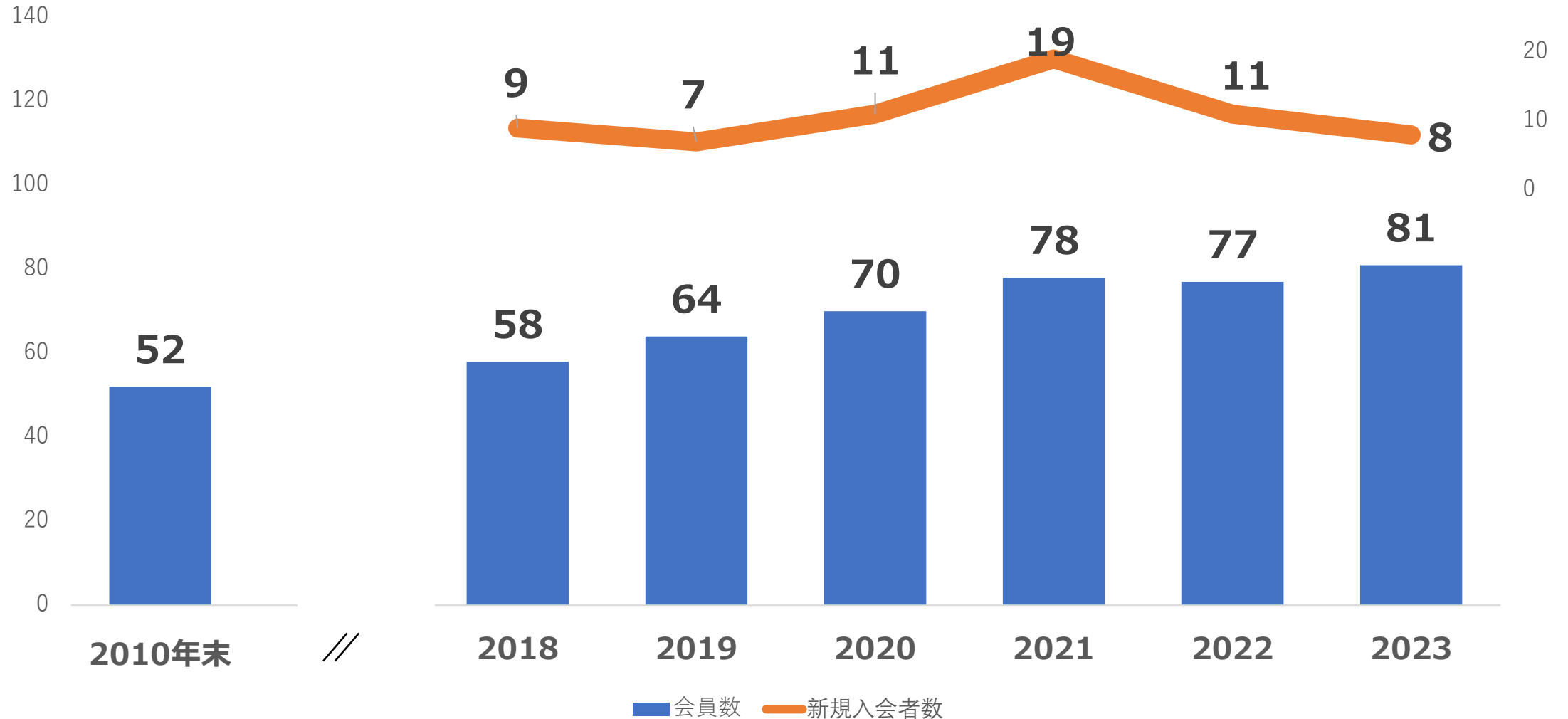
2004年（再生前）



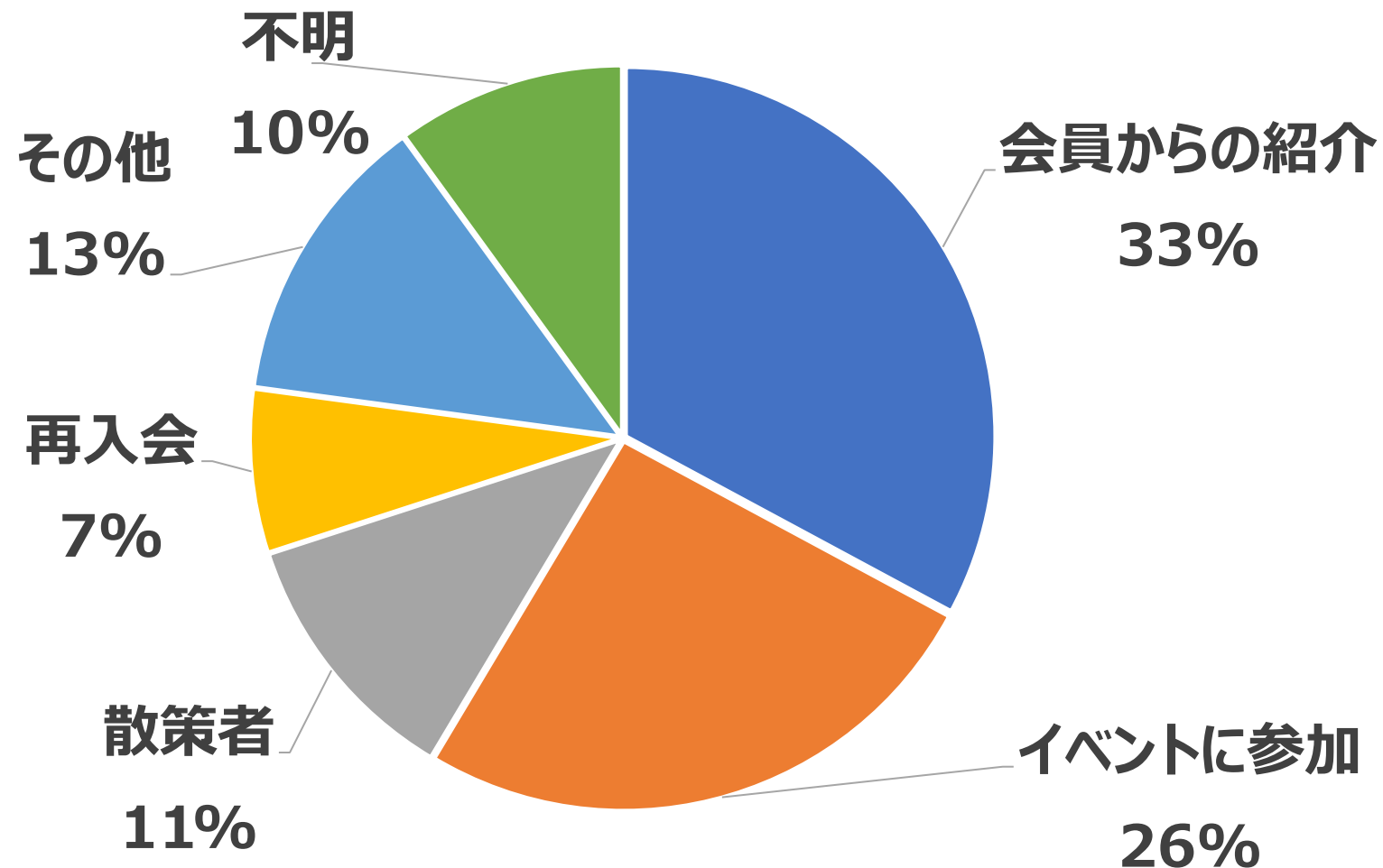
2018年（再生後）



在籍会員数と新規入会者数の推移



入会動機 新規入会者70名 2018年から2023年まで



メディアとの協働

- 2020年 東京新聞「首都残景」
 - 2020年 朝日新聞デジタル「SATO次世代に残したい里」
 - 2021年 NHK ふらっとあの街 旅ラン10キロ「多摩丘陵を超えてゆこう」
 - 2021年 NHK 新日本風土記「多摩丘陵」
 - 2021年 NHK 趣味どきっ！道草さんぽ「里山さんぽ」
 - 2022年 テレビ朝日 人生の楽園「東京・町田市～仲間と守る都会の里山～」
 - 2023年 NHK 趣味どきっ！道草さんぽ・春「里山さんぽ」
 - 2023年 NHK 連続テレビ小説「虎に翼」
 - 2024年 NHK ワールドジャパン「草木染」
- その他撮影協力（再現ドラマ、雑誌等）多数

活動の紹介 1

- 草刈り、竹木の伐採及び伐採材を活用した炭焼き、木柵の設置等里山環境の再生及び保全



- 田畑の耕作及び収穫体験、樹林地整備、炭焼体験等

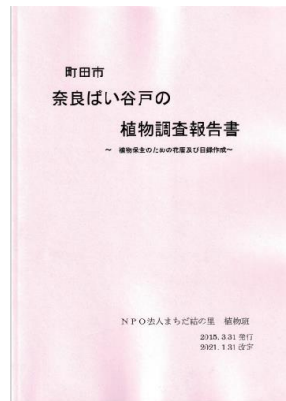


活動の紹介 2

- 自然観察会、イベント、その他の普及啓発活動



- 植生の記録、貴重種等のモニタリング等



活動の紹介 3

- 地域交流会の実施



- 農産物を学校給食に提供

